

地区・生産者に合った技術提案へ ドローンで水稲直播

JA レーク滋賀大津北営農経済センターは2022年5月19日、認定農業者の西村幸雄さんの圃場（ほじょう）80㍓に、ドローンで水稲の直播（ちよくは）を行いました。

当JA 大津地区は全国でも先駆けて、ドローンによる水稲直播を3年間行ってきました。昨年まではべんがらモリブデンコーティング種子の播種を行っていましたが、ある程度の技術を習得できたことから、新たに「リゾケアXL」と「鉄黒コート」の2つの技術での直播を試みます。

ドローンを使った直播栽培は、苗の育成や運搬等かなりの農作業を省力化ができることから、担い手生産者の負担軽減にもつながります。この日も10㍓あたり7～8分程度で播種を終えました。

移植に比べて課題となる発芽や苗立ちに関して、「リゾケアXL」はコーティング層に含まれる酵素などの作用で苗立ちを安定させる特徴があります。また、「鉄黒コート」はコーティング時の発熱がなく発芽が早い上、苗立ちが良い特徴を持ちます。

西村さんとドローンのオペレータを務める田中章吾センター長は、直播の課題克服に期待を寄せています。

田中センター長は「大津管内は中山間地も多く、田植え機が入りづらい場所がある。水稲直播技術もいろいろあるが、地区に合った技術や生産者に合った技術をしっかりと習得し説明できるよう、指導員のスキルアップも重ねていきたい」と話しました。

当JAは今後も、スマート農業の実践に挑戦していきます。

